

いいね！
プリバート

SAPIXサピックスにいちばん 身近な個別指導である PRIVATO(プリバート) その魅力をご紹介します。

社会科の学習は、一人より二人三脚が強い

① 何を、どの程度まで、どうやって覚えるか、それが勝負です

社会科が好きなお子さんは、放っておいても自分からどんどん知識を吸収していくものですが、反対に苦手意識を持っているお子さんの場合、なかなか手をつけようとしながゆえに深刻な状況に陥ってしまう、といった悪循環がよく見られます。今回は社会科という教科との向き合い方について考えたいと思います。

問1 次の表中のA～カとしてふさわしい地方名を答えなさい。

	政令指定都市の数	最も長い 河川の長さ(km)	最も高い 山の標高(m)	最も大きい 湖の面積(km ²)
A	5	322	2568	168
I	4	183	1915	669
U	1	268	2291	152
E	0	196	1982	0.18
O	1	249	2356	103
K	4	367	3776	65
中国地方	2	194	1729	86
九州地方	3	143	1936	11

たとえば、このような問題があったとします。皆さんでしたら、まずはどの部分に注目しますか。

最も標高の高い山は、言わずと知れた「富士山」ですし、最長の河川と言えは「信濃川」ですので、どちらも存在している力は中部地方で間違いありません。同じように最大の湖とは「琵琶湖」のことですから、Iが近畿地方であることも間違いなさそうです。ところがその先はどう考えていけばいいでしょうか。

もちろん社会科では、知識があればあるほど有利になるのですが、この問題の場合、山の標高を上位10位までがんばって覚えたとしても、そのすべてが中部地方に属しているので意味がありません。一方で、各項目の1位だけを覚えておくだけでは、対応しきれない場面が多くなると思います。たとえば、川の長さ＝①信濃川・②利根川(関東地方)・③石狩川(北海道地方)、さらには湖の大きさ＝①琵琶湖・②霞ヶ浦(関東地方)・③サロマ湖(北海道地方)など、3位くらいまでの知識を覚えておくことで、カバーできる範囲がぐんと広がりますので、効率的です。

各項目の第1位について知っているお子さんは多いと思うのですが、それで満足せずに、「じゃあ、2位や3位は何なんだろう?」という好奇心を働かせたいところです。また、同じ川に関する順位でも「長さ」の順位は覚えただけ、「じゃあ、流域面積のベスト3は?」という意識も持ってほしいところです。ただ、苦手な子にはこれがなかなか難しい。

そこで、プリバートのマンツーマン指導が役に立ちます。一つは覚えておくべき範囲のパロメーターになります。すなわち、実際の入試問題に数多く触れている講師だからこそ、お子さんの志望校の出題傾向と学習状況とを考慮して

SAPIXのパーソナルコーチ
VERTICE
ヴァーティス

VERTICEお茶の水

80分完全1:1の個別指導



「ここまでは覚えておくべき」というラインを設定し、「発問」を繰り返すことでお子さんの知識レベルを引き上げていくことができます。もう一つは、授業中に発問を繰り返していくなかで、ただ用語を覚えているだけなのか、本当の意味や背景まできちんと理解しているかなど、お子さんの知識についての「真の定着度合」をあぶり出すことができます。

問2 次の表はA～Dの農畜産物の都道府県別収穫量(乳用牛は飼養頭数)の上位3位の一覧です。それぞれどの農畜産物にあたりますか。次のA～Eの中から選びなさい。

	A	B	C	D
1位	山梨	山梨	高知	北海道
2位	長野	福島	熊本	栃木
3位	岡山	長野	群馬	熊本

A なす I 乳用牛 U もも E ぶどう

おそらくお子さんが一人で学習している場合、正解できてしまえば、さっさと次の問題に進んでしまうことになると思いますが、プリバートではもう一步踏み込みます。ここで注目すべきは熊本県です。Cの「なす」は、1位の高知県の促成栽培のように温暖な気候を利用して育てられています。一方、Dの「乳用牛(酪農)」は1位の北海道や2位の栃木県(那須野原)といった涼しいところで行われています。そのどちらにも熊本県がランクインしているのはなぜでしょう? それは平地では九州の温暖な気候ですが、阿蘇山麓では標高が高く涼しい気候となっているために、どちらの産業も盛んなのです。このように、プリバートの授業では、発問することを通じて、ただ問題に正解できるかどうかではなく、受験で必要となる考え方や注目すべきポイントまでしっかりと押さえることができます。

② 興味を持たせることができるか、それが勝負です

社会科にはそれなりの知識が必要である、このことは否定することのできない事実だと思います。しかし、断片的な知識をただひたすら覚えようとしてもなかなか難しいものですし、苦手意識がある場合はなおさらでしょう。一つの事象(出来事)は独立して(単独で)発生することはまずありませんので、背景や直接的な原因、そこから派生した出来事や似たような状況の出来事、ちょうど対照的な出来事など、さまざまな事柄と関連付けて覚えていくことが効果的です。そうした諸々の知識を授業のなかでちりばめていくことで、お子さんの興味を引き出すよう授業では工夫をしています。一つひとつの「点」に過ぎなかった知識が、「つながり」に気づくことで「線」になり、「面」になっていく。そうなることで覚えやすくなり、正確な知識として定着していくことになります。

せっかく個別指導を利用するのであれば、ぜひとも、興味を持って、わからないことや疑問に思うことなどをどんどん質問してみてください。講師たちはいろいろな引き出しを用意していますので、存分に活用してください。

「えっ、すごい! そんなことまで覚えているの?」。自分のお子さんの記憶力にびっくりした経験をお持ちの方は少なくないと思います。ただ、そのほとんどの場合はお子さんが本当に好きなことや、熱中しているものに対してでしょう。おそらくものすごく集中力を発揮しているのだと思います。つまり、興味を持てたことについては、どんどん記憶していけるということです。

サピックス生の最強パートナーであるプリバートの授業を通じて、「好き」や「興味」のきっかけを見つけてみませんか。まずはご相談だけでも結構です。皆さまからのお問い合わせをお待ちしております。



個別指導事業本部
中野 英樹先生

お問い合わせ・お申し込み

プリバートについてのご相談・お問い合わせは、
各教室までお気軽にお電話ください。

お近くの教室を探す▶



PRIVATO
www.privato-sapix.com

プリバート

検索

